

循環型社会のミクロ経済学（第4回）

本日の授業『動脈経済での価格決定原則③』の目標

- ①代表的な製品市場での売り手と買い手の反応が分かること
- ②代表的な製品市場での価格の決まり方が分かること

本日の構成

- 4-1. 代表的な製品市場の特徴
- 4-2. 代表的な製品市場での価格の決定
- 4-3. まとめ

4-1. 代表的な製品市場の特徴

- ①製品市場を観察する方法
- ②代表的な製品市場の特徴

(1)製品需要曲線：価格に対する消費者の反応

- <a>価格が上昇した場合の消費者の反応
→ 価格の上昇 → 限界支出の上昇 → 限界効用 < 限界支出 → 製品購入量の減少
- 価格が下落した場合の消費者の反応
→ 価格の下落 → 限界支出の下落 → 限界効用 > 限界支出 → 製品購入量の増加

(2)製品供給曲線：価格に対する生産者の反応

- <a>価格が上昇した場合の生産者の反応
→ 価格の上昇 → 限界収入の上昇 → 限界収入 > 限界費用 → 製品販売量の増加
- 価格が下落した場合の消費者の反応
→ 価格の下落 → 限界収入の下落 → 限界収入 < 限界費用 → 製品販売量の減少

4-2. 代表的な製品市場での価格の決定

①価格に対する買い手と売り手の利益の決定

- (1)価格に対する買い手の利益「消費余剰」の決定
- (2)価格に対する売り手の利益「生産余剰」の決定

②代表的な製品市場での価格の決定

- (1) 製品需要量 < 製品供給量 → 価格は下落
 - 消費者は便益の最大化を達成 but 生産者は利益の最大化を未達成
 - 生産者は利益を増やすために、価格の下落を提案
 - 消費者は便益が増やせるため、価格の下落を受入
- (2) 製品需要量 > 製品供給量 → 価格は上昇
 - 消費者は便益の最大化を未達成 but 生産者は利益の最大化を達成
 - 消費者は便益を増やすために、価格の上昇を提案
 - 生産者は利益が増やせるため、価格の上昇を受入
- (3) 製品需要量 = 製品供給量 → 価格は変化なし
 - 消費者は便益の最大化を達成 and 生産者は利益の最大化を達成
 - 生産者も消費者も、価格の変更なしを提案

4-3. まとめ

- ①代表的な製品市場は、便益の最大化を目的として行動する消費者の製品需要曲線と、利益の最大化を目的として行動する生産者の製品供給曲線によって表される。
- ②代表的な製品市場では、製品需要量と製品供給量が同じ大きさとなる状態の時に価格が決定する。

Memo